



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和5年度6月号
令和5年6月1日(木)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

持続可能な部活動を目指して

校長 三杉 紀文

本校の校舎内には、常時、美術部の生徒たちによる季節に応じた飾りが散りばめられています。4月は桜の花だったのですが、もういつの間にか紫陽花に替わっています。気温もぐんぐん上昇し、早くも夏日を迎えて、夏を意識させられます。

さて、6月は運動部の朝霞地区学校総合体育大会があり、体育祭後はそれに向けて各部活動の練習にも益々熱が入ることでしょう。部活動を巡る状況については、5月2日の部活動保護者会でも保護者の皆様にお話しさせていただきましたが、そのあり方は改めて考えてみる必要があります。

私自身も20年以上に渡って運動部の顧問を務め、地区の専門委員長や県大会の運営、選抜チームの監督等を歴任してきました。土日も休みなく練習し、大いにやりがいを感じてきました。生徒の成長にも大きな役割を果たしていて、部活動の意義はとても大きいと感じています。

一方、部活動は第一に、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものとされています。つまり、技能の向上が最終目的ではなく、スポーツや文化に親しんだり、責任感や連帯感を育んだりすることが目的です。

第二に、部活動の顧問は専門性を前提としていません。中学校教員は、それぞれ教科については免許を持ち、専門性があります。しかし、部活動は学習指導要領（文部科学省が定めている教育課程の基準）で教育課程に含まれていない活動です。生徒も強制加入ではありません。したがって、部活動の顧問は、その部活動の内容に必ずしも精通しているわけではないということです。

第三に、顧問の労働環境です。本校は今年度から完全下校時刻を少し早めましたが、それでも教員の勤務時間は16:50までですので、生徒を18時に下校させると、実はこれだけで毎日1時間10分の残業になります。土日の部活動は、そもそも勤務日ではありません。部活動の多くは教員の残業と善意によって成立していると言えます。また、本来の教育課程を充実させるための準備時間はこれとは別に必要となります。こうした点などを背景に、近年、教員はブラック職場と言われ、教員不足の要因になっているとされています。

どんなに素晴らしい商品であっても、採算が取れない（赤字になってしまう）のであれば、その販売方法の継続は難しくなります。同じように、部活動もその意義は大きいですが、意義だけを追い求めるのではなく、持続可能な方法を模索しながら実施していく必要があります。生徒自身、そして保護者や地域の皆様には、持続可能な部活動についてご理解、ご協力をお願いいたします。